

令和4年度 とまり樹はうす 事業報告書

1 総括

令和4年度の体験的利用については、57名の利用契約者の内26名から定期的な利用希望があり、最低2か月に1回程度の利用を保障することができた。この内、令和3年度から新規に利用を開始した13名については、利用開始当初は多くの方が環境に慣れない様子が見られたが、4年度になり、職員との関係構築が進み、また利用時のルーティンも定まってきたことから、殆どの方が概ね安定して過ごせるようになってきている。数年来の課題であった個別支援計画の作成については、年度後半にようやく取り組んだが、完成が遅れたこともあり職員全体での共有、支援方針の統一は十分に行えなかった。また、併設しているグループホームと併せて職員採用が計画通り進まず、土日祝日は緊急時のみの受け入れとなり、365日の支援体制の整備ができなかった（開設翌年度の平成29年度から重点課題としているが、慢性的な人手不足によりこれまで実施できていない）。

2 事業概要

- 1) 施設名 とまり樹はうす
- 2) 事業種別 短期入所事業（グループホーム併設型）
- 3) 所在地 東京都小平市花小金井南町1-26-28
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 2名
- 6) 利用契約者数 57名
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成28年4月1日
- 9) 職員 （令和5年3月31日現在）
管理者 1名
生活支援員 15名 （常勤換算10.8）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 基本方針

- 1) 一時的な生活支援
家族または介護者が何らかの理由（冠婚葬祭、病気、事故、休養、その他の理由）により、一時的に自宅で支援することが困難な場合に、日常生活に必要な支援を行う。
- 2) 生活体験としての支援
生活体験の幅を広げ、より豊かな生活を支援する。

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

5時00分～ 7時30分 起床

7時30分～ 9時30分	日中活動先及び勤務先等へ外出
16時00分～17時00分	利用開始
16時00分～20時00分	入浴
18時00分～19時00分	夕食
20時00分～22時00分	就寝

7 重点課題・目標

1) 活動

(1) 利用者支援の充実を図る

①個別支援計画を作成し、支援方針の共有、実施、評価を行う。

【成果と課題】

作成開始時期の遅延と計画の修正があり（支援方針と支援内容が合致していない、項目が整理されていない等）、定期的に利用している利用者26名全員の計画作成の完成が年度後半となった。また、完成した支援計画の共有についてもまだ不十分なこともあり、統一した支援の実施及びその評価は行えなかった。

②利用者の状況の把握及び共有の為、ケース記録の内容を充実させる（計画に沿った記録、本人の状況等の丁寧な記載）。

【成果と課題】

利用開始から終了までの生活の流れを時系列で記載し、昨年度よりは、本人の様子の記述が徐々に増えている。しかし、前述の①の通り、今年度初めて作成した個別支援計画の共有が不十分となり、支援方針に沿った記載がなされていない他、個々の課題に着眼した記載については不十分となった。

③利用時の様子を家族等へ報告し、本人や家族等から意見や感想を聴取することで支援の評価を行う。

【成果と課題】

定期的に体験利用を行っている26名については概ね落ち着いて過ごすことができた。この内令和3年度利用開始の13名については、利用開始初年度は半数程度に戸惑いの様子が見られたが、4年度になって環境に慣れた様子が見え始めた。家族も安心感を得ているようで、利用時の様子等の問い合わせも減少し、利用終了後の家庭での様子等を聴取する機会も減った。

④事故防止を徹底する

- ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
- ・無断外出行為のある利用者に対し、見守り及び建物内の施錠を徹底する。

【成果と課題】

服薬の際は、服薬指示書を基に服薬担当者を含め複数の職員で確認し、誤薬等の事故は発生しなかった。また、けがや離接等の事故も防ぐことができた。

(2) 緊急対応の役割を果たす。

365日の支援体制を整備し、緊急対応の支援を行うことでセーフティネット機能の役割を果たす。

❖常勤換算7.5名を採用し16.7名の支援体制とする。

【成果と課題】

新たに職員1名（常勤換算0.3名）を採用したが3月末現在の支援体制は職員15名、常勤換算10.8人（全員グループホームとの兼務）となった。計画では目標の常勤換算数を16.7名としたが、14.0名であれば365日の支援が可能となるため、あと3.2名不足している状況となった。土日祝日については、支援体制の不足により、緊急ケースのみの受け入れとなり、令和3年度比でほぼ同数となった。

《土日祝日の受け入れ人数》

令和3年度 実人数 8名、延べ50名

令和4年度 実人数 7名、延べ56名

2) 人材育成

(1) 職員の育成・指導

- ①利用者との関係を構築し、利用者の特性を理解する。
- ②利用者一人ひとりの心情理解に努め、言葉遣いや振る舞いに留意する。
- ③統一した支援を行い、業務の標準化を図る。
- ④ケース記録を充実させる（利用者の行動の流れ、支援内容の他、支援計画に沿った事項や本人の様子などを丁寧に記載する）。

【成果と課題】

- ① ② 利用時における申し送り事項等については利用開始時に本人及び家族から聴取した個人シートをもとに、主たる職員からその他の職員へ引継ぎを行い、概ね正確な情報伝達ができた。また、昨年度から新規に利用を開始した利用者13名についても、徐々に本人の特性把握や関係性の構築が進んでいる。
- ③④ については7-1) - (1) ①②に記載の通り。

3) 経営管理

(1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努め、計画的に予算を執行した。

(2) 介護給付費収入等の安定確保を行う。

・目標利用率： 55%

《令和4年度目標額》

・介護給付費収入 約435万

・都加算収入 約195万

約630万

【成果と課題】

令和3年度と比較すると新型コロナウイルス感染拡大の影響による利用自粛や体調不良による当日のキャンセルが減少したことで利用実績が増加し、介護給付費及び東京都の補助金（都加算）の総額は計画を上回った。

《利用率》	R3年度実績	令和4年度実績	前年度との差
	56.4%	63.3%	6.9%増
(内訳)			
平日	73.9%	82.4%	8.5%増
土日祝	20.8%	25.7%	4.9%増

《給付費等収入》

	R3年度実績	R4年度実績	前年度との差
介護給付費収入	約420万円	約480万円	60万円
都加算の収入	約180万円	約190万円	10万円
総額	約600万円	約670万円	70万円

8 その他の課題

1) 夜間等緊急時の対応

夜間等の緊急時は、併設しているホームの職員と連携し支援態勢の確保を行うこととなっているが、夜間に緊急体制を要する事案は発生しなかった。

9 事故報告

なし

10 実施状況

1) サービス実施日数 自：令和4年4月1日 至：令和5年3月31日
231日間(内、土・日・祝日開設39日間)

11 利用状況

1) 利用登録者数 57名

2) 実利用者数 30名

(1) 利用目的

①緊急利用	10名	(令和3年度 11名)
②体験利用	20名	(令和3年度 24名)
合計	30名	(令和3年度 35名)

(2) 平日・土日祝日利用

①平日	29名	(令和3年度 34名)
②土日祝日	7名	(令和3年度 8名)
合計	36名	(令和2年度 42名)

※30名中6名は平日と休日併用。 ※42名中7名は平日と休日併用。

3) 延べ利用者数

(1) 利用目的

①緊急利用	211名	(令和3年度 159名)
②体験利用	251名	(令和3年度 253名)
合計	462名	(令和3年度 412名)

(2) 平日・土日祝日利用

①平日	406名	(令和3年度 362名)
②土日祝日	56名	(令和3年度 50名)

12 利用者状況

1) 年齢別

	実人数	延べ人数
・20歳以上30歳未満	23名	357名
・30歳以上40歳未満	3名	42名
・40歳以上50歳未満	4名	63名
合計	30名	462名

2) 区分別

	実人数	延べ人数
・区分2	2名	19名
・区分3	5名	68名
・区分4	8名	106名
・区分5	5名	120名
・区分6	10名	149名
合計	30名	462名

3) 性別

	実人数	延べ人数
・男性	25名	403名
・女性	5名	59名
合計	30名	462名

4) 居住状況

	実人数	延べ人数
・管内居住	24名	355名
・管外居住	6名	107名
合計	30名	462名

1.3 環境の整備

施設内外の美化及び整理整頓を行い、衛生保持、また転倒の防止に務めた。

1.4 健康管理

検温、手洗い、消毒、時間差の食事などの基本的な感染対策を行った。ただし、マスクについては、着用を拒否する利用者が多く、徹底ができなかった。新型コロナウイルス感染症については、とまり樹はうすで感染が広がることはなかった。

1.5 防災計画

併設しているグループホームと合同で、災害時避難訓練を年2回実施した。